

企業知財部門向け：ホワイトスペース分析に最適な生成 AI ツール選定レポート

Manus

企業の知財部門、新規技術領域への参入機会の探索、日本語での操作・分析結果の出力が必須という要件に基づき、最適な IP ランドスケープ特化型生成 AI ツールを選定・評価いたしました。

新規技術領域の探索において、日本語環境で直感的にホワイトスペース（技術的空白領域）を特定できるツールとして、以下の3つを厳選し、スコアリングを行いました。

1. ツール評価スコア（要件適合度）

ツール名	総合評価	新規領域探索力	日本語対応度	知財部門向け機能
Patsnap (Analytics / Eureka)	S	S	S	A
Patentfield	A	A	S	S
LexisNexis PatentSight+	A	B	A	S

(評価基準：S=非常に優れている、A=優れている、B=標準的)

2. 最もおすすめのツール：Patsnap (Analytics / Eureka)

今回の要件において、**最も強力に推奨できるのは「Patsnap」**です。特に、AI アシスタント「Hiro」や「Eureka」モジュールを組み合わせることで、新規参入機会の探索において圧倒的なパフォーマンスを発揮します。

推奨理由

- **直感的な 3D ランドスケープとホワイトスペースの可視化:** 特許情報を視覚的な地形（山と谷）に変換する「3D ランドスケープ機能」を備えています [1]。これにより、特許が密集している領域と、まだ手薄なホワイトスペースを直感的に把握でき、新規参入のアイデア出しに直結します。
- **完全な日本語対応と AI アシスタント「Hiro」:** 全収録特許を日本語で検索・表示できるだけでなく、独自の LLM を搭載した AI アシスタント「Hiro」と日本語で対話しながら分析を進めることができます [2]。これにより、知財部門の作業効率が劇的に向上します。
- **非特許文献（論文等）の統合検索:** 1 億 8,800 万以上の非特許文献（学术论文など）も同時に検索・解析できるため [1]、特許出願前の基礎研究段階にある最新技術のトレンドも捉えることができ、新規領域探索に最適です。

3. 次点のおすすめツール

Patsnap に加えて、比較検討の対象として以下の 2 ツールも有力な選択肢となります。

3.1. Patentfield

「日本語での使い勝手と独自の AI 分類を重視する場合」

Patentfield は、日本の知財担当者向けに設計されたプラットフォームであり、日本語環境での操作性に非常に優れています。

- **強み:** AI セマンティック検索（文章検索）や、自社の独自の教師データを用いた「AI 分類予測」機能が強力です [3]。自社の技術分類軸に沿って特許を自動分類し、どの分野に空白があるかをマッピングするのに適しています。
- **新規領域探索:** 生成 AI を活用したサマリー機能や、特許を「読む」から「見る」に変革するデータ可視化機能を備えており [4]、知財部門が経営層や R&D 部門に報告する際の資料作成が容易になります。

3.2. LexisNexis PatentSight+ (Protégé AI)

「特許の『質』を重視し、経営層への戦略提案を強化したい場合」

PatentSight+は、特許の価値評価（Patent Asset Index）に特化したハイエンドツールです。日本語版 UI もリリースされており、日本の知財部門でも導入が進んでいます [5]。

- **強み:** 単なる特許の「数」ではなく、「質（技術的関連性と市場カバー率）」を評価します。これにより、「特許数が多いが質が低い領域（Soft White Space）」を見つけ出し、質の高い特許で市場を支配する戦略を立てることができます。
- **新規領域探索:** 新たに搭載される生成 AI アシスタント「Protégé」により、自然言語で戦略的な質問（例：「競合 A 社が手薄な技術領域はどこか？」）を投げかけ、数秒で取締役会レベルの回答とチャートを得ることが可能になります [6]。

4. 導入に向けたネクストステップ（推奨アクション）

企業の知財部門として新規技術領域の探索を成功させるために、以下のステップでツールの選定を進めることをお勧めします。

- 1 **Patsnap のデモ・トライアルの実施:** まずは、要件に最も合致する Patsnap（Analytics および Eureka/Hiro）のデモを申し込み、自社が現在関心を持っている具体的な技術テーマ（例：「次世代パワー半導体のパッケージング技

術」など)で、実際に3Dランドスケープマップを作成し、ホワイトスペースがどのように可視化されるかを確認してください。

2 自社の分析スタイルとの適合性確認:

- 視覚的なアイデア出しを重視するなら → **Patsnap**
- 自社独自の分類軸での精緻なマッピングを重視するなら → **Patentfield**
- 特許の価値(質)に基づく経営戦略を重視するなら → **PatentSight+**

3 R&D部門との連携テスト: ホワイトスペース分析の結果は、最終的にR&D部門の新規テーマ創出に活かされる必要があります。トライアル期間中に、出力された日本語のレポートやマップをR&D部門の技術者に見せ、彼らにとって「直感的で分かりやすいか」「新たな気づきが得られるか」を評価してもらうことが重要です。

References

[1] イプロスものづくり. "Patsnap Analytics |特許検索/分析を AI で革新".

<https://pr.mono.ipros.com/patcore/product/detail/2001193229/> [2] JETRO. "日本を目指すシンガポール発 SU (1) Patsnap、AI で知財活用".

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2024/74798653019de35f.html> [3] note. "IP ランドスケープを強化するための特許情報と一般情報の統合 (4)".

https://note.com/super_whale150/n/naf00a185cb93 [4] Patentfield. "「2025 知財・情報フェア & コンファレンス」出展のお知らせ". <https://patentfield.com/news/294> [5]

LexisNexis IP. "LexisNexis PatentSight 日本語版リリース".

<https://www.lexisnexisip.jp/solutions/ip-analytics-and-intelligence/patentsight/patentsight-jp-ui/> [6] LexisNexis IP. "LexisNexis Protégé in PatentSight+". <https://www.lexisnexisip.jp/products/protege/>